VOLUME.
2
【漫画】小宮利公
【原作】笑うヤカン
キャラクター原案○新堂アラタ
魔王の始め方
THE COMIC
ヴァルキリーコミックス

【漫画】
小宮利公

原作を頂いた時、最初に描きたいと思ったシーンは
今巻収録の12話の辺りです。
そこら辺を注目して読んで頂ければと思います。

【原作】
笑うヤカン

一巻が出たとき、原作小説版と区別するために
タイトルを別にしたいと言われ案を聞かれたのですが、
私が提案した「漫画でわかる魔王の始め方」は
無事却下されました。残当。

VOLUME.
2

【漫画】小宮利公
【原作】笑うヤカン
キャラクター原案◯新堂アラタ

魔王の始め方
THE COMIC

ヴァルキリーコミックス

【漫画】
小宮利公

原作を頂いた時、最初に描きたいと思ったシーンは
今巻収録の12話の辺りです。
そこら辺を注目して読んで頂ければと思います。

【原作】
笑うヤカン

一巻が出たとき、原作小説版と区別するために
タイトルを別にしたいと言われ案を聞かれたのですが、
私が提案した「漫画でわかる魔王の始め方」は
無事却下されました。残当。

ヴァルキリーコミックス

魔王の始め方

THE COMIC

2

【漫画】小宮利公 【原作】笑うヤカン

キャラクター原案◎新堂アラタ

CONTENTS

valkyrie comic series - how to book on the devil the comic
comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan
presented by kill time communication

2

Step.7 ——— 5
Step.7.5 ——— 29
Step.8 ——— 33
Step.9 ——— 61
Step.10 ——— 89
Step.11 ——— 115
Step.12 ——— 139
Step.13 ——— 167

ようジェイク
調子はどうだ？

いつも通りさ
天気は快晴
気分は上々
本日も異常なし

だろうな

ポーカーでも
やるか？

あ～暇だな
たまには
ゴブリンでも
攻めてこねえかな

全くだ
腕が
鈍っちまうぜ

三枚
変えるぞ

俺は…
このままでいい

ほう強気だな
レイズ

レイズ

おい…
嘘だろ

おいおい
カードで負けた
くらいで
そんな顔すんなよ

キングの
フラッシュだ

!?

魔物だ！
何百匹っていう魔物が
攻めてきやがる！

魔物だと？
何だ
ゴブリンか？

なんだって！

フルハウスだと!?

おいジェイク
どこ見て…

?

Step. 7

オーガまで隊列を組んでいやがる！

ゴブリンにオーク…

おい…
嘘だろ

おいおい
カードで負けた
くらいで
そんな顔すんなよ

キングの
フラッシュだ

!?

なんだ
って！

フルハウス
だと!?

おいジェイク
どこ見て…

Step.7

魔物だ！
何百匹っていう魔物が
攻めてきやがる！

魔物だと？
何だ
ゴブリンか？

ゴブリンに
オーク…

オーガまで
隊列を組んで
いやがる！

！

なんだ
ありゃ！

いいからさっさと
あのごくつぶしどもを
叩き起こしてきやがれ！

俺の目の良さを
疑うのか？
ゴブリンとオーガを
見間違えるか！

見間違いじゃないのか？
ゴブリンとオーガが
仲良くお散歩なんて
聞いた事ねーぞ

インプだ！

待て
撃ち落とすな！
何か持ってる

!?

手紙…か？

町長を呼べ
それと兵士長も…
…ついでに
商人ギルドの
長もだ

魔術師オウルが
宣戦布告を
仕掛けてきた

我に従い 税を支払うならよし
さもなくば力ずくで従わせる
一刻以内に決断し
従うならば門を開けて迎えよ

我々は
断固として
戦うべきだ！

その場合
我々の損害は
計り知れません

商人

ここは歩み寄る
べきなのでは？

町長

むう…

邪悪な魔術師に
屈すると言うのか？
この恥知らずめ！

兵士長

それに
これは我が
フィグリア王国に
弓引く所業だぞ！

ではお聞きしますが
あなた方は
あの魔物の軍勢に
勝てるのですか？

ぬう…

冒険者どもが
いるだろう！

魔物を相手に
するなら
あの無法者達が
うってつけだ！

あいつらは
報酬がないと
動かんぜ
誰がその金を
出すんだ？

まあ
そうかも
しんねぇけどよ

貴様らと
言う奴は…！

この期に及んで
そんな事を
抜かすか!?

敵は悪の魔術師！
これは侵略戦争だ！
正義は我らにあり
戦うのに理由など…

ですが先方は
略奪をしに
来た訳ではない
譲歩すればむしろ
こちらに利すらある

というか
俺はもう
冒険者じゃ
ないんだから
そんな事を
言われてもな…

少し
黙りなさい！

…

ジェイクと
言ったか

君は敵を直接
見てきたと
言ったな

率直に言ってくれ
この街の兵士と冒険者
全ての戦力を持って
戦ったとして…

敵は倒せるのかね？

……

良いか者ども

良く聞け！

敵は邪悪なる
魔術師オウル！

そしてその配下の
悪鬼妖魔ども！
その魔力は計り知れず
数は３００を優に
超える！

対して我らは
僅か２００の
手勢にすぎない！

だがしかし！
我らフィグリア王国
兵士団と勇猛なる
冒険者諸君が
力を合わせれば

ゴブリンや
オーク如き
物の数ではない！

剣を取れ
槍を掲げよ！
正義は我らにあり

邪悪なる者は
光の前に必ず滅びる！
往くぞ！我らが愛する
この街の為に！

ゴゴゴゴ

開門！

優オ前ゴ配
先的に狙え！
オーガを
前衛に任せ
ゴブリンは
配置につけ！

敵はデカブツだ
射殺してしまえ！
ぐっと引き付けて
狙いやすい

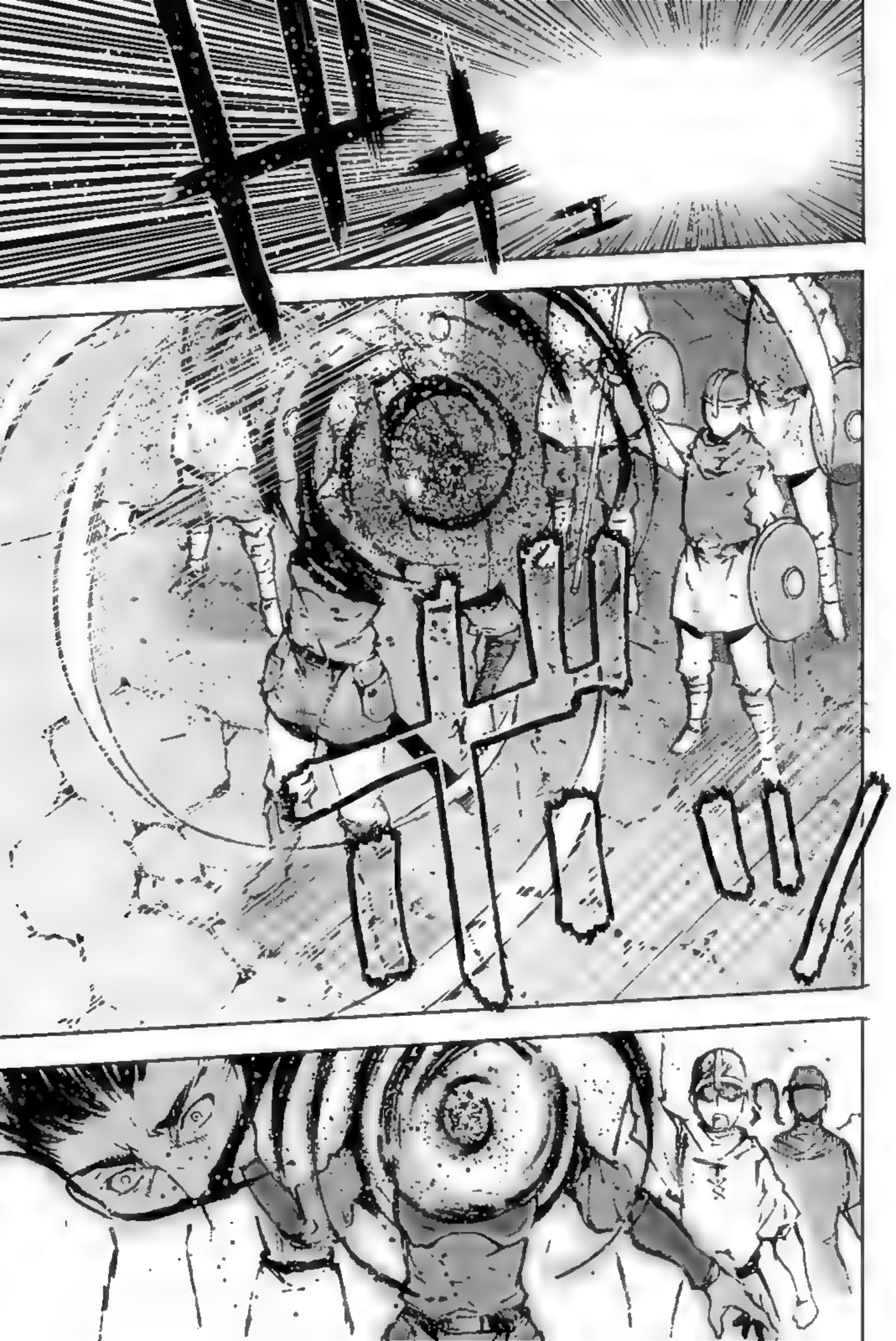
俺の魔術で
しっかり守ってやるから
安心してゴブリンどもを
駆逐してくれよ 兵士さん

…まさかお前達に
背中を任せる日が
来ようとはな…

だがこんなに
頼もしい味方は
他にいない！

往くぞ！

勇者たちよ！



うわあああ

兵士長がやられたああ！

あ

しまった

そのすまん
主殿
敵の最前線に
なんかやたらと

…調子に乗った感じの
ポーズを取っている
男がいたので…
つい射殺してしまった

まあ良いだろう
そろそろ一刻経つ
頃合だ

あの布陣が
何よりの答えだ
そろそろ始めるか

アールヴ達よ
櫓(やぐら)の上の弓兵を
射殺せ

矢を
放ったぞ！

全員
防御姿勢！

くるぞおお！

そんな
あの距離から
なんて威力だ…

信じられん…

灰色熊を一撃で
屠(ほふ)る剛弓だ

この距離からでも
人に当たれば半身が
丸ごと吹き飛ぶ

リル
魔力をよこせ

はーい

ধপ
ঠকাস
একটি ঝাপড়
একটি ঝাপড়
ঘুষি
ঘুষি

ドドドド…
ドドドド…
ドドドド…

なんだ…！
一体何が
起こってるんだ！

…

門が…！門が
吹き飛んだ！

腕が…
…俺の腕が
ねえええ！

弓兵の連中は
何してるんだ！

来る
来るぞおお！

ドドドドド

ドドドドド

やつらが
来る！

そんな奴ら
とっくに
全滅してるよ！

嫌だあああ
死にたくない！

こんなところに
これ以上
いられるか！

待て！我々は
街を死守する！
敵は貴様ら
冒険者が迎え撃て！

金は払ったんだから
その分働け！
大口を叩いただけの
仕事はしろ！

あんなモン防げる奴は
この世にいねえよ！
人間業(にんげんわざ)じゃねえ！

なんだと？
ふざけんじゃねえ
あんな化け物
相手にできるか！

金なんか
いらねえ
降りさせて
もらうぜ！

そうだ
そうだ

ならん！
逃げると
いうなら…

貴様らも
逆賊として
この場で処刑する！

ザキ

く…！

…わかったよ
やってやろう
じゃねえか！

馬鹿め 門も射手も
いないってのに
街に立てこもって
どうする気だってんだ

俺は
巻き添えは
ゴメンだぜ

民間人もろとも
なぶり殺しに
されるだけじゃ
ねえか

あいつら
戦わずに
逃げる気か！

愚か者どもめ

そんな事をしても
鴨撃ちにされるだけだ

…撃たなくて
良いのか
主殿

ああ

既に大勢(たいせい)は
決まった

しかし
やはり人間は
愚かだな

この大事に
お互い争い
足を引っ張り合う
醜いものだ

それは
違う

人間というのはな
多様な生き物なのだ

おそらく
あの人間どもは
最初は奮起し
正義の為に心を
燃やした事だろう

それそのものは
別に嘘でも
偽りでもない

しかし
同時に裏で
打算や醜い欲望も
渦巻いている

それもまた
嘘ではない

どちらかのみを
持てる人間などおらぬ
人は常に善と悪の
狭間で揺れ動く

その多様性は
時には恐ろしい
矛となり

時には自分を
殺す毒となる

今回は毒として
機能するよう
働きかけたのが
上手くいった

しかし
だからといって
人間を侮れば
足元をすくわれるぞ

は！

今回は辺境の
田舎町
勝てて当然の
相手だ

練習だと思え

ではそろそろ
行くか

隷属か

死か

その日オウルは
街を一つ手に入れた

Step7 End

Step.7.5

あん！

あん！

あん！

あん！

いっぱい
来てる…よ！

すご…い
オウルのが

んあ

あー気持ち
よかった！

随分
いやらしい
身体になった
もんだな

そうしたのは
オウルでしょ～

なんで街攻略に
連れてってくれ
なかったのー

あたしも
活躍した
かったなー

ん～

だから
こうして
埋め合わせ
してる
だろう

今回は
お前の手を
借りる程の
事じゃない

それに迷宮を
守れる者が
残ってないと
困るだろう

じゃあ
もう一回ね

んっ

んっ

まったく…
容赦は
しないぞ？

あっ！
あっ！
…
あ…
あのね
オウル
それ
もっと…
大きい
ほうが…
いい？
大きかろうが
小さかろうが
関係ない
お前は
美しい
ん…嬉しい…ね
もっと奥まで…
突いて…！
滅茶苦茶に
して…！

そら！
イク…ぞ！

ふあああ
らめえ！

ビュルルル

イクうう！

ああ

ふぃ

ビクッ

!?

Step7.5 End

Step.8

フィグリア王国
王都

これで占拠された
街は七つ目だ
一体どうなって
るんだ？

討伐隊も
全滅とは…
何をしておる

おいおい

アカニが落とされた時
辺境の街のひとつくらい
捨て置けと
言い出したのは
貴公だぞ

そういうお主も
賛同しておった
ではないか

全く天才軍師とやらは
何をしておるのかね？
所詮 女か…

女というだけで
民衆にもて囃(はや)されて
困ったもんだ

…

奴の居場所は
分かってるというのに
何を手こずっておる

全く…

元老院の
老害どもが
聞くに堪えん

アカニ陥落時
討伐隊派遣を
進言しても
聞く耳持たなかった
くせに…

フィグリア王国軍師
キャス

相手は迷宮を
住処にする魔術師
騎士など
役に立つ訳もない

結局
上手くいってるのは
冒険者頼みの
迷宮調査だけ…

ガチャ

ペラ…

奴が街を
占拠していく中で
特異な点…

それは
攻め滅ぼすのではなく
領地として奪うことだ

監視として
魔物を配し
民に税を納めさせ
領地に問題があれば
それを解決さえする

商人は関税を
免除され
破壊された
街の復興も相まって

占拠される前より
活気を持つ
街さえあるという

事実
そう感じる者も多く
『治める王が
変わっただけさ』
と嘯く者さえ
少なくない

魔物を従え
魔術を操り
魔窟にすむ
魔の国の王
すなわち

魔王

ガッ
ガアア

ナジャ！

今だ

グオオオ！

わかってるわ

よ！

アランは大丈夫ですか

シャル

待ってて
すぐ治し
ますから

シャル(僧侶)

うむ
素晴らしい
威力だな

…ロングソード+1
とかいいんじゃ
ないの

真っ二つの剣（ソード・スラッシュイング）
とでも呼ぼうか

ああたしは
素敵な名前だと
思いますよ

ナジャ（剣士）

ウィキア（魔術師）

アラン（剣士）

じゃあ俺の剣は
切り裂きの剣（ソード・スライシング）
ってところか

しかし…
この迷宮は
敵も手強いが
その分 戦利品も
凄いな

地下4階か…

大分
潜ってきたな

アラン…
あれ！

!?

……

明らかに
今までの造りとは
違うな…
どうする？

魔力は十分に
余っているわ
あたしも
大丈夫です
疲れもない
私も問題ないぞ

よし

じゃあ行くぞ

おおおお

おおおお

おおおお

!?

……!!

ミノタウロス……!!

このおれ!

ばぎ

おわっと!

うあ あ！

ナジャ！

大丈夫ですか？

ああ お前の防御魔法のおかげだ

しかしアレは ちょっと迂闊に近寄れないな

ガキ

私が…動きを
止めてみる

ウィキア

ただ
あんまり長くは
持たないから

オッケー

十分だ
お願いする

うおおおお

……!
ちょっと待って
ヒロインは
私なんだけど

ナジャ！

今よ！

おお

え？

く…
ばかな！

!?

ナジャ！

危ない！

ぐあ！

ああ！

ガハ！

アラン！

俺に構わず
やれえ！
とどめだ！

シャル
ナジャ
ウィキア

ズキキ

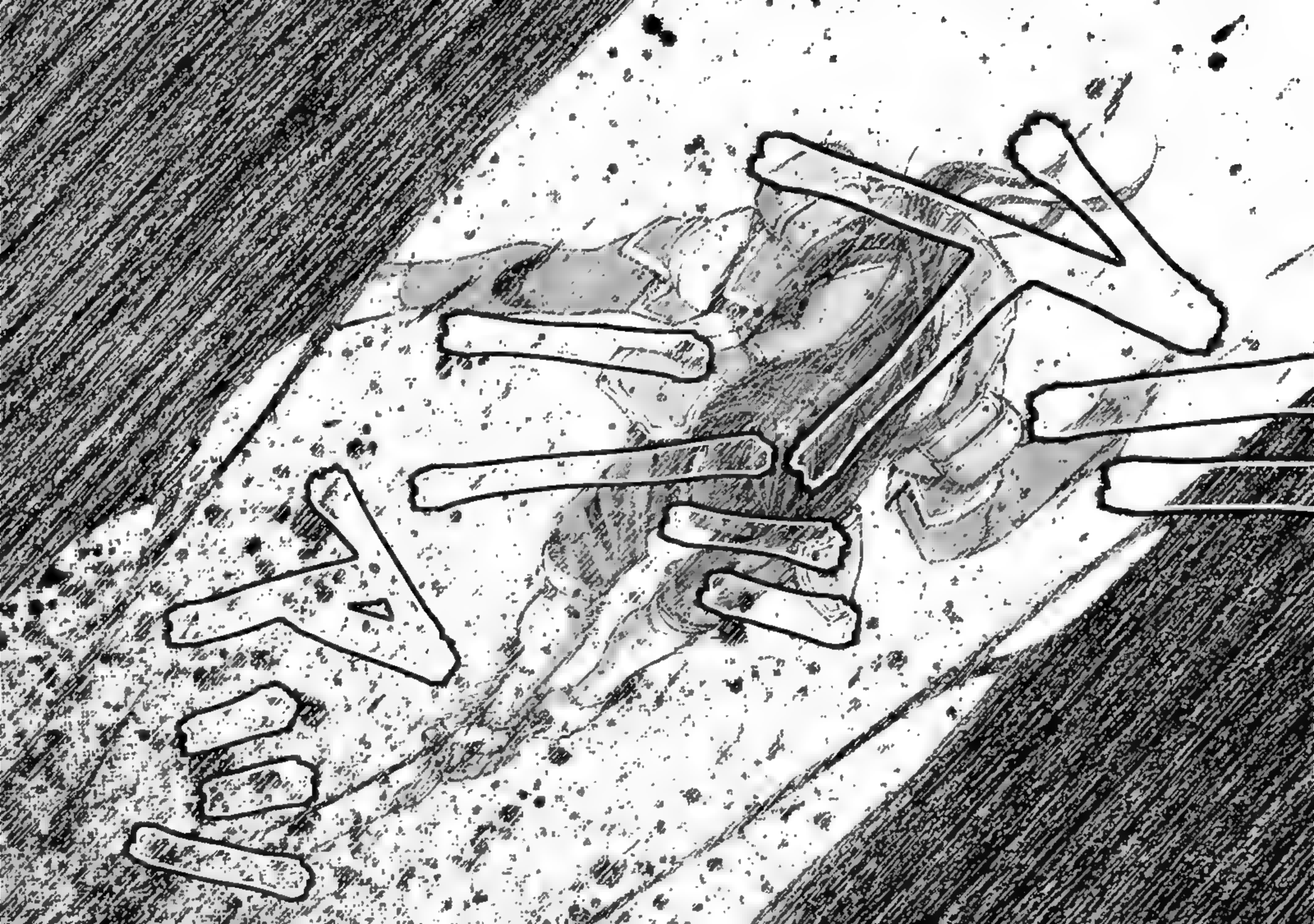
く…！
もう
もたない

神よ
光を！

おおおおおお

!?

ナジャ！



アラン！

いてて

今傷を
治しますね

アラン
無茶しないで

助かったよ
シャル

とどめを刺したのは
私なのに
私にはなしか？

私も色々
活躍したと
思うんだけど

私の頭も
撫でて構わないぞ
イヤ むしろ撫でろ

わ 私もアランが
どうしてもと
言うなら
撫でさせて
やっても

二人とも
アランが困ってる
じゃないですか

わかってる
ナジャも
ウィキアも
ありがとな

初めてここまで
来る者が
いると思えば
これはとんだ
色男だな

!?

ボオオ

…

まさか…
あなたが…
邪悪なる魔術師
オウル？

いかにも

国中を
騒がせている
魔術師がこんな
若い男だった
とはな…

護衛もつけずに
ノコノコと
現れるとは
運がいい

……

そんな…！

…！

声が…

出せない

体が…
動かない…！

どうして…！

確かに
斬ったはず…

一瞬の判断力と連携…
お前達の戦いは
見させてもらった
感心したぞ

まさか…！

呪い…！

しかしそのような
パーティでさえ
呪われた武具（単純なトラップ）には
引っかかるのだな

少しはおかしいと
思わなかったのか？

さて
剣士は動けず
魔術師は
魔術を使えない

そんな状態で
コイツを相手に
してもらおうか

Step.8 End

Step. 9

…ハ…
ハハは…

そうか…
あの後捕えられ
この牢に…

私が無事ということは
三人もまだ…？
いや…女は生かしても
アランは…

殺されなかったのは
幸いだが 余り良い
状況とは言えんな…

さっさと
歩け！

アラン！

ナジャ！

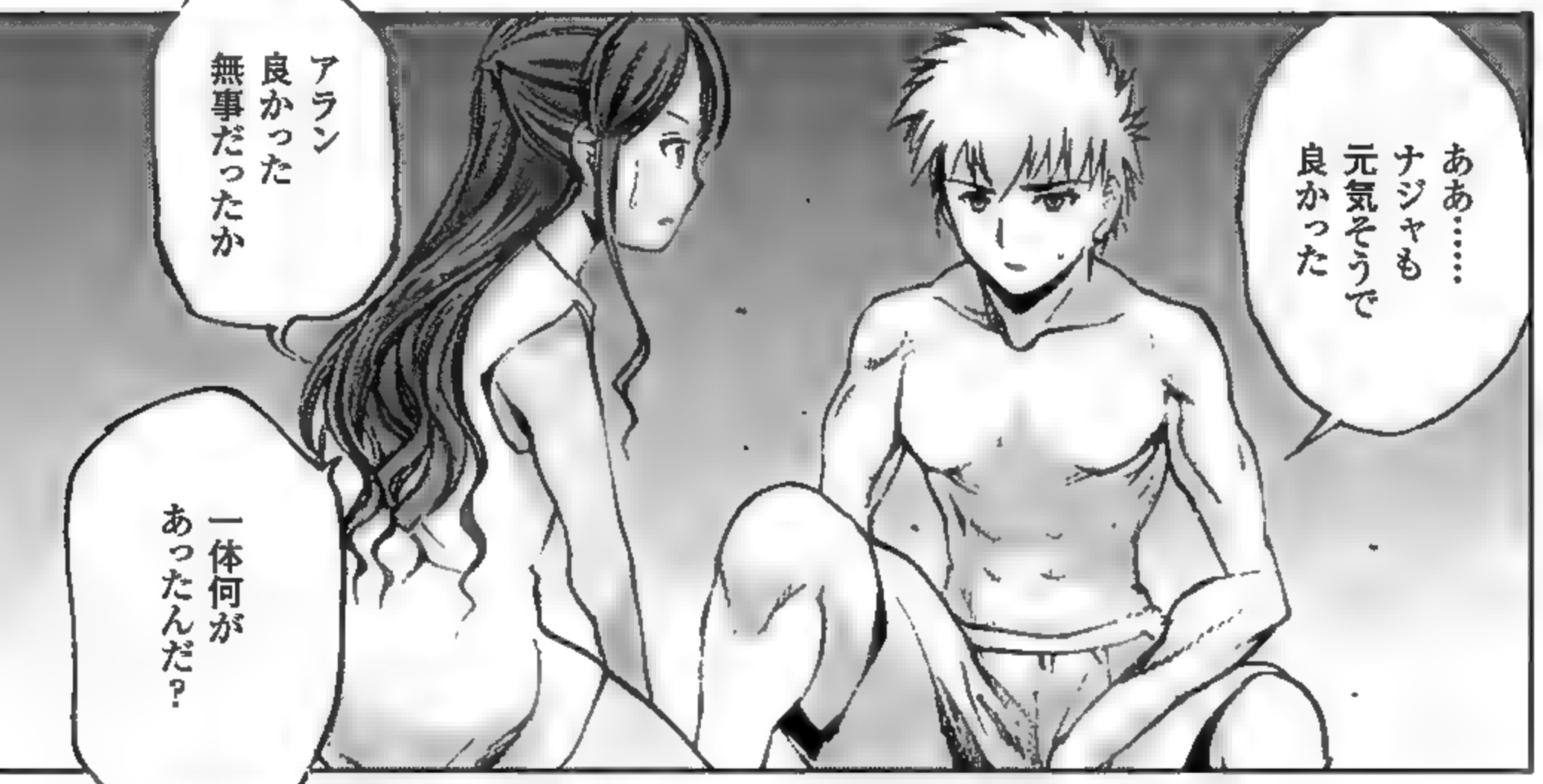
二人共
妙な動きは
するな！

奥の壁に
手を付け
早くしろ！

無駄な事はするな
貴様らにはまだ二人
仲間がいることを
忘れるな

…

アラン！


ああ……
ナジャも
元気そうで
良かった
アラン
良かった
無事だったか
一体何が
あったんだ？

呪いだよ

魔封じの呪いを
かけられた
魔術を使おうとすれば
全身に激痛が走って
とても無理だ

シャルと
ウィキアも
同じだ

ナジャだけは
魔力を感じないからって
先に牢に入れられたんだ

…そうなのか

とりあえず
隣に座ったら？

あ…

ああ…

そういえば…
下着を着けてない

しかし
呪いというのは
厄介だな

魔封じの呪具なら
破壊すれば効果は
消せるだろうが
呪いとなるとな…

…

ナジャ

こんな時に言うのも…
…いや
こんな時だからこそ
言っておきたい

好きだ

ナジャ

君を
愛している

…

モテ

え…

え…
な…

…ほ
本当に？

で…でも

でも
シャルと
ウィキアは…

ドキ

二人の事は
もちろん大切に
思ってる…

けど

愛してるのは
ナジャ
君だけだ

そんな…
…アラン

ありがとう
嬉しい…

その…
はしたない
女と…

…思わないで
欲しいんだが

その…だ

い…
いいのか？

抱いて
…くれないか？

この後…

オウルに
無理やり…
…される
可能性もある

こんな稼業だ
覚悟はある

それでも

…初めてくらいは
好きな男に…
抱いて欲しい

そうでなくとも
無事帰れるか
どうかもわからない

……

わかった

あ…

ドキ

ドキ

ドキ

レ…

レオナと
呼んで

ドキ

ドキ

あまり
見ないでくれ…
…恥ずかしい

どこも恥ずかしい
所なんてないさ…
…綺麗だよ

ナジャ

レオナ・ジャーヴィス
それが私の本当の名だ

…綺麗な名前だ
レオナ

…あっ

ビク!

ビク!

パロ。。

は…う

ふあ

ビクッ

ビクン?

レオナ
脚を開いて

駄目だ
アランこんなの…
…恥ずかしすぎる

あぁっ

んあぁ！

ビクン

くちゅ…

あ、

くちゅ…

あ、

くちゅ…

アアランレオナ…
私もう…

可愛いよ…
レオナ…

…大丈夫だと
思う…からっ

じゃあ…
…いくよ

…!?

どうした？

いいや
なんでも
ない…

…その
ひと思いに
やってくれ

んあああ…！

大丈夫か？

大丈夫だ…

ただ…その

ぎゅっと…してくれ…

アラン…ああ…

くちゃ…

くちゃ…

くちゃ…

くちゃ…

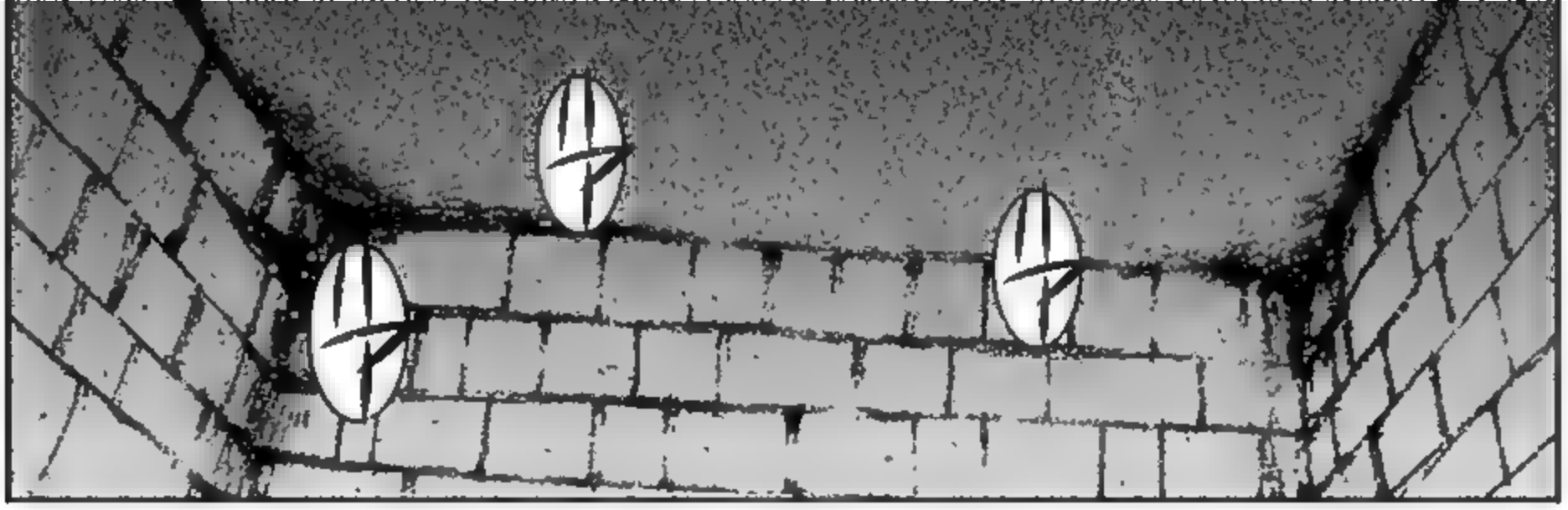
んっ…

レオナ…

ああ！アラン…！もっと…激しく…

アランっ
中に…

ビュビュビュ



…

中々 良かったぞ
ナジャとやら

ベッドに横たわったアランの上
私は一心不乱に腰を振っていた

ああ！

ああ…アラン…！アラン…！

あれから幾度も肌を重ね
痛みを感じる事は全くなくなっていた

ああ！

あん

二人とも遠慮なく
お互いの身体を貪り

愛欲にふける…

初めて肌を重ねた日
目を覚ますと彼の
姿はなくなっていた

……

朝餉が差し入れられ
それから半日後
夕餉が届けられると共に
アランが戻ってくる

アラン！

ナジャ

別々の間 何をして
いたのか問うと
彼は言葉を濁した

アラン…

言いたくない事であれば
無理には聞くまいと
私は彼を心配しつつ
問いただすのをやめた

共に夕餉を取ると
どちらからともなく
手を絡ませ

再び
睦み合う

目を覚ますと
アランがいない

そんな生活の
繰り返しが
ここ数日ずっと
続いていた

囚人生活は
暇の一言だった
狭い監獄の中で
出来る事は何もない

とりあえず身体が
鈍ってしまわない様に
鍛錬を行うが
狭い室内では限界がある

食器を使って
何とか脱走
できないかと
壁を掘ろうと
してみたり

錠前を壊そうと
してみたりといった
努力は全て
徒労に終わった

あ…

次に壊してみろ
焼けたスープを
素手で
飲ませてやる

と脅されてから
そういった
努力は諦めた

おそらく魔術で
補強がかけて
あるのであろう
食器はすぐ
使い物にならなく
なった

暇である事を
除けば囚人生活は
それなりに
快適だった

食事もそれなりの
物を与えられ
メニューも
毎日変わる

桶の水で
身体を清め
排泄用の壺も
日に二度
回収された

食事以外に時間を
知るすべもない生活に
いつしか私は
何年も牢に入れられて
いる気分になった

楽しかったはずの
アラン達との冒険の
日々は遠く霞み
色彩を失って
現実感がない…

そんな中
アランだけが
私の心に安らぎを
与えてくれた

このままの生活が
ずっと続けばいい
そんな気持ちになった

だが…

17

どうした？

今…

なんでも…ない

やっぱり…
そうだ…

あの

今まで
感じていた
違和感…

間違いない

あの男は

アラン
じゃない…

…

！

まだ鍵は
かかってない…

よし

思えば時折起こる
チラつきは
アランと一緒に
いる時だけ
起こっていた

…

おそらく
幻術の類でも
かけられていた
のだろう

アランに化けて
私を弄んだ男…

絶対
許さない

……

腐臭がしない

まるで王宮の廊下のような清潔感だ

……！

あの扉…光が漏れている

今は
堪えるんだ

！

あれは

扉の前に
ゴブリン…

番兵か…
怪しい

よし

アイツだ…
アランに化けて
何度も私を
抱いた男…

いや…しかし
今は丸腰
アランを
助けるのが先だ

ギ、

!?

アラン！

ああ…
アラン！

ナ…ナジャ！
ナジャなのか？

ああ私だ
待たせたな

待ってろ今
縄を解く

さあ逃げよう
一旦逃げて
体勢を立て直すんだ

丸腰で逃げるのは
難しいかもしれないが
私とアランなら
何とかなる

運が良ければ
装備やシャル達も
見つかるかも
しれない

……

……その必要は
ない…

俺は
この
迷宮の主(あるじ)

そして

お前の主だ

あ…ああ…

思い…出した

オウル…様

…身分を隠して
冒険者の一行に
紛れ込む任

よく頑張ったな
レオナ

美しい髪を
俺の為に犠牲に
してしまったな…

…しかし
短い髪のお前も
また美しい
後できちんと
整えさせよう

…

…終わりましたか

ああ

今度は寝室に
連れて行け

後で一応
呪いはかけるが
もう抵抗する事は
ないだろう

主殿

私には…よく
わからんのだが
結局あの娘は
元々主殿の配下
だったのか？

そんなわけ
ないだろう

反面目晦(めくら)ましの類は
効き易いから
今回は搦め手から
攻めてみた

それが
この顔だ

剣士というのは
全く魔術を
使わないが
あれで中々
厄介でな

精神力の
強さだけなら
魔術師をも
凌ぐ事が多い

大丈夫
あの男に化けて
娘を犯したのは
わかっているのですが
ふむ
よく見ていよ

どうだ？
あ…
あれ？

ゆっくりゆっくりと
顔を変化させたのだ
生き物の認識という奴は
中々面白くてな

ゆっくりとした
変化には中々
気づけんように
なっている

まあ
金と琥珀色で
髪の色が比較的
似ていたのが
幸いしたな

これを数日がかりで
やりながら
夜毎(よごと)に暗示をかけ
記憶を潜在的に
植え込んだ

「偽の記憶」と
「変化する顔」
…後は時折わざと
見せてやる
アラン本人の
顔のせいで

『実は自分は
オウルの手先で
冒険者の仲間の
フリをしているだけ』
とな

奴はすっかり
アランの顔が敵で
俺の顔が味方だと
信じこんだ

人間という奴はな
どんなに疑り深い者でも
相手の裏をかいたと
思った瞬間は酷く心が
無防備になる

その瞬間を利用し
敵と味方の顔が
入れ替わったのを
支点にして 植え込んだ
記憶を一気に表面化させ

奴の今までの人生の
本当と嘘を『すげかえ』
俺の味方であると
信じ込ませた

……

信じ込む
というのは
怖いぞ

疑いすら
しない事は
防ぎようがない

だがまあ…実験は
うまくいったが
この方法は手間が
かかりすぎるな

次はもう少し
スマートに
済ませるか

Step.9 End

Step.10

数日前

うぅ…ん…？

み…みんなは…

起きたか

!?

その気なら
とっくに
殺している

……
何が望み
ですか

では身体でも
捧げてもらおうか

!?

…!

慌てるな
別にお前を害する
気はない

ふ

ふざけないでください！

あなたの様な邪悪で下卑た男に汚されるくらいなら

あたしはこの舌を噛んで死にます！

命を懸けるほど嫌か

当然です！

!?

ではその命が仲間の物でも同じことが言えるかな？

お前の仲間は三人とも無事だ…

…今は

な

…この！恥知らず

…好きにしなさい

…

どうやら
お前は何か
思い違いをして
いるようだな

俺はお前の
身体など
どうでもいい

請い願うのは
お前の方だ

〝お願いですオウル様
どうかこの身を
犯してください〟
…とな

あ

あああ
あああ

あああ！

ああ

なるほど
貴様の要求は
良くわかった

あああ
あああ！

まず右腕だ

次に左腕

右足

左足

その後は耳を削ぐ

目を抉り

舌を切り取る

安心しろ 回復魔術をかけながら少しずつ進めてやるから死にはせん

何もできぬ肉の塊になったところで会わせてやろう

お前の愛しい男にな

ま 待って！

お願い…やめて

なんでもしますから…お願いします…

ほう
ならば言う事が
あるのではないか？

お……お願いです
オウル……様

この身を……っ
うう……犯して
くださ い……！

アラン…
ごめんなさい…

どうか…
…どう…か

ふむ

…まあ
いいだろう

ベッドに座り
服をたくし上げて
脚を開け

ううっ…

!!……

全部
見せろ

ふん

いっ…や…
こん…な…！

白アールヴは
黒アールヴと違って
貧相だな

ん…！

んぎ…！

ふふ…
大分濡れてきたな

どんなに
嫌がろうと
所詮女は
こんなものだ

そ…そんな…
わけ…！

こり
こり

ではこれは
なんだ？

ぷっ
ぷっ
ぷっ

ち…

ちが…
いや…
いやあああ！

ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ

…恥じる事はない
これは自然な事…

…神が定めた
当然の摂理だ

神……
が……？

俺はお前達四人を
一人で倒した

計略を用いは
したが…

それでも俺が
お前達より強い事は
確かな事実だ

そして女は強い男に
惹かれるように
身体ができている

心はどうあれ
肉体は嘘をつけぬ

天より与えられた
ものならば
神がそう定めたと
言う他あるまい

すぐに…
…もっと良くなる

くちゅ

…！

ん…！

な…に…
これ

き…も…
ち…

い…いや
こんな…！

はっ

…嘘…
…嘘です……

はっ

嘘ではない
言っただろう

はっ

お前の身体は
俺に惹かれ
既に受け入れて
いるのだ

…だが
心はまで許せ
とは言わん

心は
お前のものだ

差し出すのは
身体だけで良い…

神の御業(みわざ)を
たっぷりと
味わうがいい

強い男の精を子宮で
受け止める事は
女としての
何よりの喜びだ…

なに…これ…
なにか…く…る…

全身を喜びと
快感が突きぬけ
お前を幸福へと
導くだろう

ビク
ビク

あああああ——っ!!

ビク

はあ
はあ
はあ
ビク
ビク
ビク
ビク

き…きも…ち…
い…い…

翌日

オ…オウル様

そ…

…ダメだ

そんな…

どうか
あたしを…

犯してください

なんとか
この男の気を
引き止めて
おかなきゃ…
みんなが…

……

あたしを愛して
どうか…
お情けをください
…ませ

いいだろう
股を開け

オウル…
さまああ

きもち…
いい…れす

三日目

……

はー

はー

これは…
みんなのため
なんだから…

シャルのおま○こに
オウル様の逞しい
ペニスを…
突き入れてください

四日目

あたしが…
やらなきゃ…！

オウル様の
立派な
おちんちんで

はー

くぱぁ

あたしが…！

ああん

ふああ！

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

シャルの
おま○この
奥まで犯して

中にたっぷり
ザーメン出して
孕ませて
くださいい…

あたしが
やらなきゃ
みんなが…！

随分ねだるのが
上手くなったな
いいぞ シャル

五日目

はぁぁん…
…オウル様の

もっと突いて…
…シャルのおま○こ

そうよこれは
み…みんなのため

みんなのために
仕方なく
やってるんだから

大きいのが…
…入ってきてるぅ…

たっぷり…
味わってください

六日目

ズン

ズン

ズン

オ…
オウル…
様？

…

イかせて
欲しいか？

はい
イかせて
欲しいです…

…お願いです
イかせてください

ではお前の
真名を教えろ

!?

そ…それは

イかせて
欲しいんだろう？

クチュ

クチュ

あぁっ
はい！

イかせて
欲しいですぅ

オウル様 駄目
駄目ですうう…

だ…だめ…！
イきたい…！

にゃちにゃち

もっと
犯して

でも…
それだけは…！
それだけは…！

シャルを
滅茶苦茶に
してください！

ああっ
駄目なのぉ
やめちゃやです

くちゅにゃち

もっと奥
奥にい

オウル様の
固くて逞しい
おちんぽで

シャルの
どろどろの
おま○こ
奥まで突いて

ぐちゅぐちゅに
犯して
くださいいう！

では

真名は
言わずとも
良い

その代わり
全てを
我に捧げよ

求められれば
いつでも
身体を開き

どんな命にも
従う性奴となる事を
誓えば望み通りに
してやろう

なるっ
なりますうっ！

シャルは
オウル様の
性奴ですっ

オウル様専用の
肉奴隷に
してくださいいっ!!

よしっ
では今から
お前は俺の
性奴隷だ

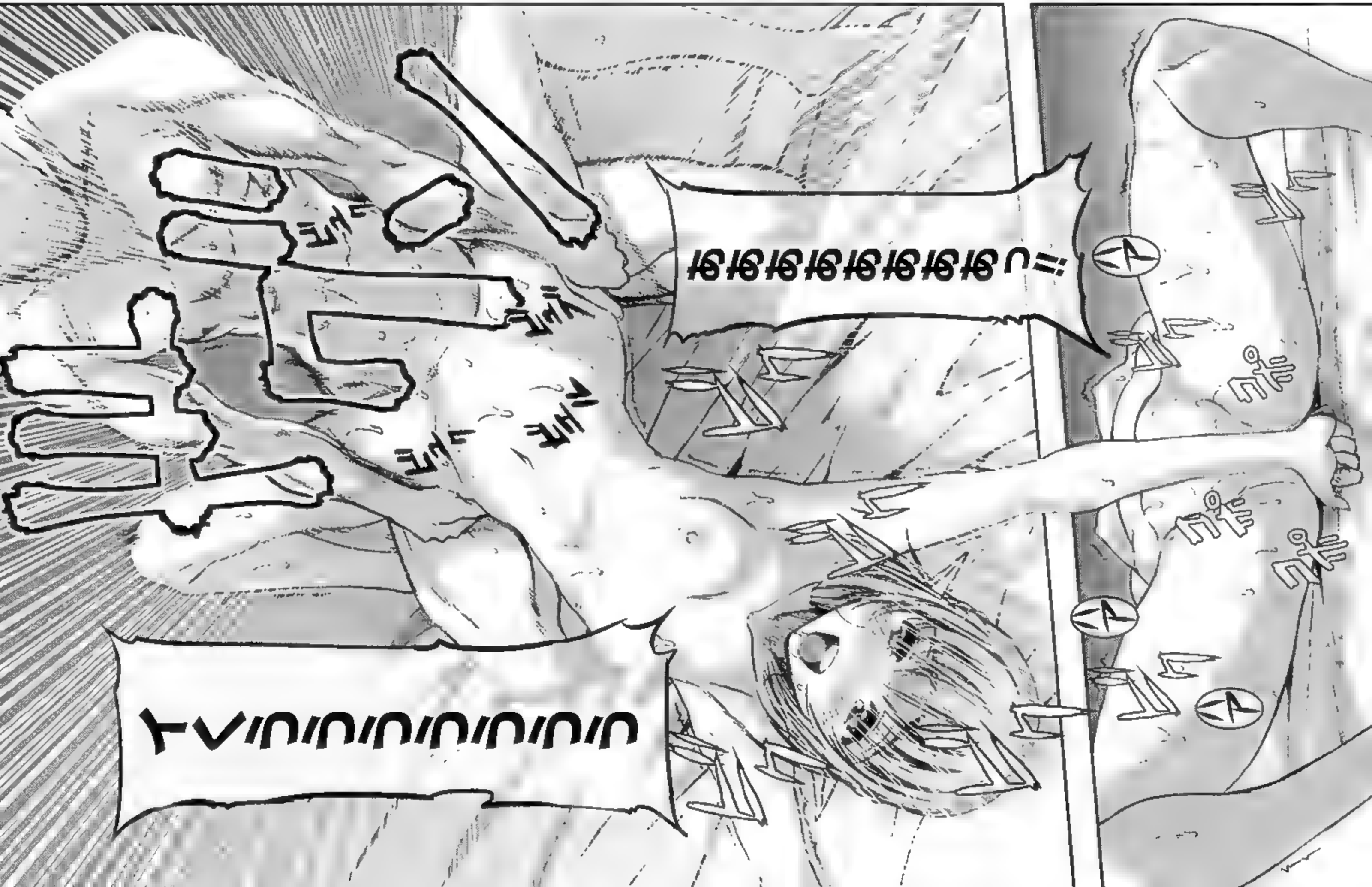
身体も心も
全て俺に捧げ
いつでも股を開け

ああああっ

くるっ

くるっ

イく
イっちゃいますっ！
オウル様の精液っ
来たよおっ


ああああああああああ〜〜
ドドド

清めろ

ん…

くちゅ

ん…

くぷっ

くちゅ

ん…

くちゅ

お前の真名は？

くちゅ

…シャーリー
サザーランドです

オウル様…♡

お疲れ様～

ああ流石(さすが)に
少し疲れた
お前にも手間を
取らせたな

いーよいーよ
初心(うぶ)な子にエロいの
教え込むのも
まあまあ
楽しかったしね

にしてもご主人様って
ああいうのが趣味なの？
わたしもあんな風に
おねだりした方が良い？

ご主人様ぁ
リルのオマ○コ
ご主人様の
逞しいおちんちんで
ズボズボしてぇ
って

…

別にあれは
俺の趣味じゃない
「言霊(ことだま)」といってな
言葉というのは
力を持つ

嘘だとわかっていても
自分の口で繰り返すうちに
真実味を帯びていき
終いには当人にも
本当なのか嘘なのか
わからなくなる

いい？ オウルを
悦ばせなさい
そうすれば仲間は
安全よ

ほ…本当ですか
でも
どうすれば

誘い文句を
工夫するのよ
淫語とか交えて

い…淫語？

心は差し出さなくて
いいと言ったが
ああいう一途な娘には
そんな事は不可能だ

ふーん
わたしの事も
その方法で
堕落させちゃう？

お前の様に二枚舌を
使い分けられるような
相手には効かん

それに
悪魔なんてものは

存在自体が
端から堕落しきって
いるものだろうが

あーそうね
そんな事
されなくても
わたしオウルの事
結構好きだしね

…そうか

…

…ほんと

だよ？

それより
腹が減ったんだろう
褒美だ
相手してやる

やったーっ
ひっさしぶりの
ごっはんー！

Step.10 End

魔王の始め方

THE DEVIL

ナジャ

naja-fencer

† 職業:剣士
† 戦力:6
† 最大貯蓄魔力:0.5

冒険者アランのパーティメンバーのひとり。
アランに化けたオウルの刷り込みにより、彼の下僕となってしまう。真名はレオナ。

シャル

syaru-priest

† 職業:僧侶
† 戦力:6
† 最大貯蓄魔力:2

人質のアランを守るためオウルに我が身を捧げるも、逆に彼の虜となる。清楚な表情の下に貪欲な色気を秘めた白アールヴ。

Step.11

やっと
来たの

安心しろ
お前の仲間達は
皆生きている

そんな言葉で
安心できるとでも
思っているなら

あなたは
大間抜け

そうだな
では言い直そう
大きな怪我もないし
精神を壊すような事も
していない

今すぐ地上に
戻せば冒険者として
復帰できる
3人ともだ

何が
言いたいの

ゲームで俺と
勝負をしてもらう
お前が勝てば
仲間全員を無事に
地上に帰してやる

俺が勝てば
お前自身を
もらい受ける
条件は4対1だ
お前に有利だろう

賭け？

馬鹿な事を
言わないで
そんなものに乗る
わけがないでしょう

情緒のない奴だな…
…まあいい
お前とは
手っ取り早く
賭けをしにきた

まあそう言うと
思ってな

公正な審判役も
用意した

悪魔…！

もし俺がゲームで
イカサマをすれば
この悪魔に魂を捧げて
お前の勝ちとする

対等な勝負だ
受けるか？

この悪魔はオウルの
配下だろうが
悪魔というのは
本質的に人間の
絶対的な味方には
ならない存在…

……

これほどの
大悪魔となれば
尚更…
魂を賭けている
となれば
悪魔は容赦なく
それを取り立てる
だろう

性格にもよるが
場合によっては
私の味方に
回ってくれさえ
するかもしれない…

いいでしょう
話を聞くくらいの
気分にはなったわ

ゲームの内容は
実に単純だ

まずお前と俺は
攻撃側と防御側に分かれ
それぞれ身体の部位を
相手に見えないように
隠しながら札に書く

書けるのは

頭

…

胸

腹

腰

両手足

の8箇所だ

攻撃側と防御側の
書いた部位が
同じであれば
防御成功で攻守交替

RIGHT ARM DRAW right arm

違った場合は
攻撃側に防御側の
その部位の
『所有権』が渡り
やはり攻守交替する

RIHT ARM WIN
LOSE waist

『所有権』を取られた
部位は呪いによって
相手の手に渡り
自由に動かすことは
できなくなる

ただし生命維持に
必要な内臓の活動や
五感や思考能力
発言などは自由

実質
四肢の動きを
制限するものと
考えていい

イカサマについては
多岐に渡る
読心術・遠隔視・未来視・暴力
呪い・強制・妨害・幻術等に
偽装や約束の反故などは
全て反則とみなされ

発覚次第
悪魔によって
魂を奪われ
ウィキアの
勝ちとなる

魔力を
封じられている
お前の側に
反則はない

例外は両腕の
「所有権」を奪われ
続行できなくなった場合だ
これは反則には
含まれない

そうは言っても
字を書けないん
実質敗北じゃな
ない

…！

お前には口も
脚もあるだろう？

本当に私が勝てば
私達を無事に地上へ
送ってもらえるんで
しょうね

ああ責任をもって
そこの悪魔が
彼女達を地上に
送ることになる

無事の定義は
地上に戻った後
元と完全に
同じように
戦える心身状態
であること

わかった
それでいい

では
始めるとするか

先攻は
お前でいい

このゲームは
言うまでもなく
先攻が有利…

……

相手の所有する
肉体を残り1個に
した時点で勝ちとなる

互いがランダムに
場所を指定するなら
攻撃が失敗する
可能性は1／8…
終盤はともかく
序盤の攻撃はあまり
深く考えずともいい

8種の部位の価値は
対等ではない

攻撃が成功すれば
その部位は
一時的にとはいえ
相手のものになる

腕を取られれば
文字を書けなくなる
その時点で私は敗北する
いざとなれば
口や足で書くことも
可能だろうが
できればそんな
屈辱的なことはしたくない
腕は最優先で
守らなければならない…

逆に奴はそういった
事情には多少有利…

たとえ両手足を
縛られても
口さえ動くのなら
魔術で文字を
書くことなど
造作もない

対等と言いながら
勝負以前の部分で
私は不利…

しかし
そこにこそ
付け入る隙がある

…書けたわ

随分長い事
考えたな
まあ良い

攻撃側ウィキア
指定部位『左腕』
防御側オウル
指定部位『頭』

攻撃ハ成功
オウルノ左腕ハ
ウィキアノ
モノトナル

ふむ…では
次は俺の
攻撃だな

ヤメアアア

頭？守るなら
まず四肢が定石のはず…

頭を取られて
何か弊害が…？

攻撃側オウル
指定部位『胸』
防御側ウィキア
指定部位『右腕』

攻撃ハ成功
ウィキアノ胸ハ
オウルノ
モノトナル

最初は間違いなく
四肢を取りに
来ると思ったのに
胸…？

次は私の
攻撃ね

攻撃ハ成功
オウルノ右脚ハ
ウィキアノ
モノトナル

ほう

ふふん
余裕ね…
四肢を取りに
行く戦略は
読まれてる…

そして
奴にとっては
腕も他の部位も
さして価値に
差はないの
だから当然

でも

そここそが
付け入る隙だ

ギフト
と呼ばれる
先天的な
才能がある

それは魔術よりも
一段高い『運命』の
領域にある能力で
極一部の人間だけが
持って産まれてくる

次は…
私の攻撃ね

『英雄の星』も
それにあたり
ギフトの中でも
特に高い効果を
持つものの一つだ

ウィキアの持つ
『魔力の瞳』は
それに比べれば
随分とおとなしい

このギフトを
持つ者は
本来目に見えない
魔力の流れを
肉眼で見る事が
できた

つまり両腕を
封じてオウルが
魔術で筆を扱う
ようになれば

ウィキアは魔力の
流れからオウルの
文字を当てられる
自信があった

…

…！

ひあっ!?

ビクッ

な!?

にゅ
にゅ
にゅ

ちょ！
んあ…！

あう！

これは
妨害行為
じゃないの!?

妨害デハナイ
文字ハ
書ケルダロウ

所有物を使って
所有物を賜って
いるだけだ
何の問題がある？

く…！

…続けるわ

次の狙いは
今度こそ右腕…
…と見せかけて
左脚よ…

今 オウルの頭に
あるのは
右腕かその他の
部位か…

攻撃側ウィキア
指定部位『左脚』
防御側オウル
指定部位『左脚』

攻撃
失敗

焦った
股間を弄られて
呆けたか？

言ってなさい

攻撃側オウル
指定部位『右腕』
防御側ウィキア
指定部位『右腕』

攻撃失敗

あなたこそ
色ボケのせいで
血迷ったようね

カッ

カッ

攻撃側ウィキア
指定部位『右腕』
防御側オウル
指定部位『腰』

よし！

ミシ
ミシ

これで両腕を封じた！

防御ハ成功
オウルノ右腕ハ
ウィキアノ
モノトナル

さあ魔力を使いなさい

私のギフトで奴の魔力の流れは丸見えよ…

魔力で筆を操れば筆の動きで何を書いたか読める！

…

すら
すら

!?

ガビーン

なんで所有権のない部位を動かせるの!?

逆に聞こうか

所有権があるとはいえお前の身体を自在に動かせるのにたかが所有権を持たぬ程度で

何故自分の身体を動かせぬなどと思ったのだ?

これは反則じゃないの?

何故ダ?

く…!

どうした次は俺の攻撃の番だ防御部位を提出しないか

……

攻撃側オウル
指定部位「左脚」
防御側ウィキア
指定部位「右脚」

攻撃ハ成功
ウィキアノ左脚ハ
オウルノ
モノトナル

!?

んあぁ！

もぐもぐ

ヒュッ

な…！

ヒュッ

ヒュッ

んは！

いや…！

こ…の…！

いい
眺めだな

…そうか！
人間の感情の機微や
性的な事情など
この悪魔には
推し量れない…

あくまで物理的
魔術的な妨害が
ある事しか判断できない
つまり審判として
全くあてにならない…！

下種め！

所有権を
取られても
身体を動かせる
オウルに
特定の部位を
守る意味はない

意識的な動きは
魔力で動かし
無意識的な動きは
規約によって
保証される

でも生命維持に
関係ない活動は
所有権がなければ
動かせないのでは？
だから奴はさっき
腰を守った

生理的な欲求による
半分意識的で
半分無意識的な
腰の動き…
！つまりは
そういう事だ

攻撃側ウィキア
指定部位『腰』
防御側オウル
指定部位『腰』

攻撃八失敗

くうう…！

左脚を…
無理やり広げて…
くそ…！

ヤアア

これで
こちらの方が
部位が
多くなったな

攻撃側オウル
指定部位『頭』
防御側ウィキア
指定部位『右脚』

攻撃ハ成功
ウィキアノ頭ハ
オウルノ
モノトナル

…そうね

今すべき事は
仲間を救う事…
羞恥心を
気にしてる
場合じゃない

次は
私の攻撃よ

覚悟を決めなさい
ウィキア…
もう迷わない！

攻撃側
ウィキア
指定部位『左脚』
防御側オウル
指定部位『腰』

攻撃ハ成功
オウルノ左脚ハ
ウィキアノ
モノトナル

…ふむ

攻撃側オウル
指定部位『右腕』
防御側ウィキア
指定部位『右腕』

攻撃ハ失敗

よし

残る
オウルの部位は
頭 胸 腰の3箇所

一方私は
右腕 右脚 腹の
3箇所だ

……

攻撃側
ウィキア
指定部位「胸」
防御側オウル
指定部位「頭」

攻撃ハ成功
オウルノ胸ハ
ウィキアノ
モノトナル

ドドドドド

む…

やった…！

これで奴は残り2箇所

次は何を守るか

右腕を守らなければ筆が持てなくなる

右脚を守らなければ処女を奪われる

でも…だからこそ…

カッ

カッ

……

攻撃側オウル
指定部位『腹』
攻撃側ウィキア
指定部位『腹』

攻撃八失敗

あなたは
蛇みたいな男ね

狡猾で
卑怯で
姑息

薄汚れ痩せた
考えしかできない
だから考えを
読むのは容易(たやす)い

次の私の手を
教えてあげる
『頭』よ

精々
疑いなさい！

ヤアアアッ

攻撃側ウィキア
指定部位『頭』

攻撃ハ成功
オウルノ頭ハ
ウィキアノ
モノトナル

防御側オウル
指定部位『腰』

所詮あなたは
そんなものよ

他人を疑う事しか
知らず
真実が何かも
わからない

さあ悪魔
私を解放して
仲間のもとに
案内しなさい

…

…どういう事？
ゲームは私の
勝ちでしょう！

まさか約束を
違えると
言うの!?

……

ククク…

若き魔術師よ…
確かにお前の
言うとおり…
俺は疑う事しか
知らぬ

しかし
年長者より
老婆心ながら
お前に一つ忠告を
与えてやろう

お前ももう少し
他人というものを
疑ったほうがいい

どういうこと!?

まさか…
悪魔が…!

そやつは忠実に
働いている
イカサマは
何もしていない

ただ
お前が少し
勘違いして
いるだけだ

!

このゲームの勝敗は
お互いの所有する
肉体が残り1部位に
なった時点で決まる

…順番については
言及していない
別にどれからでもいい

まさか…
所有する
肉体って…

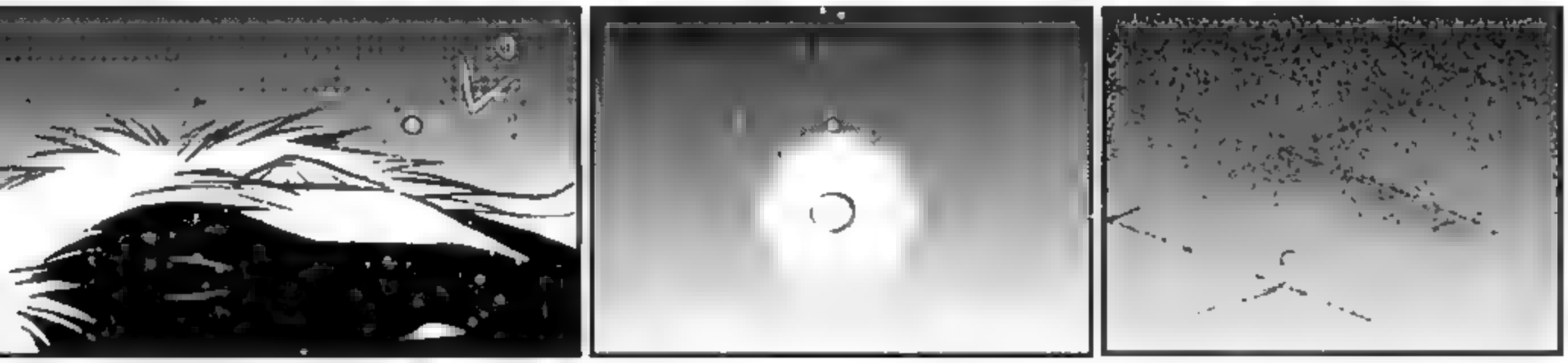
お前の仲間は
3人だろう？
俺自身を含め
…4人

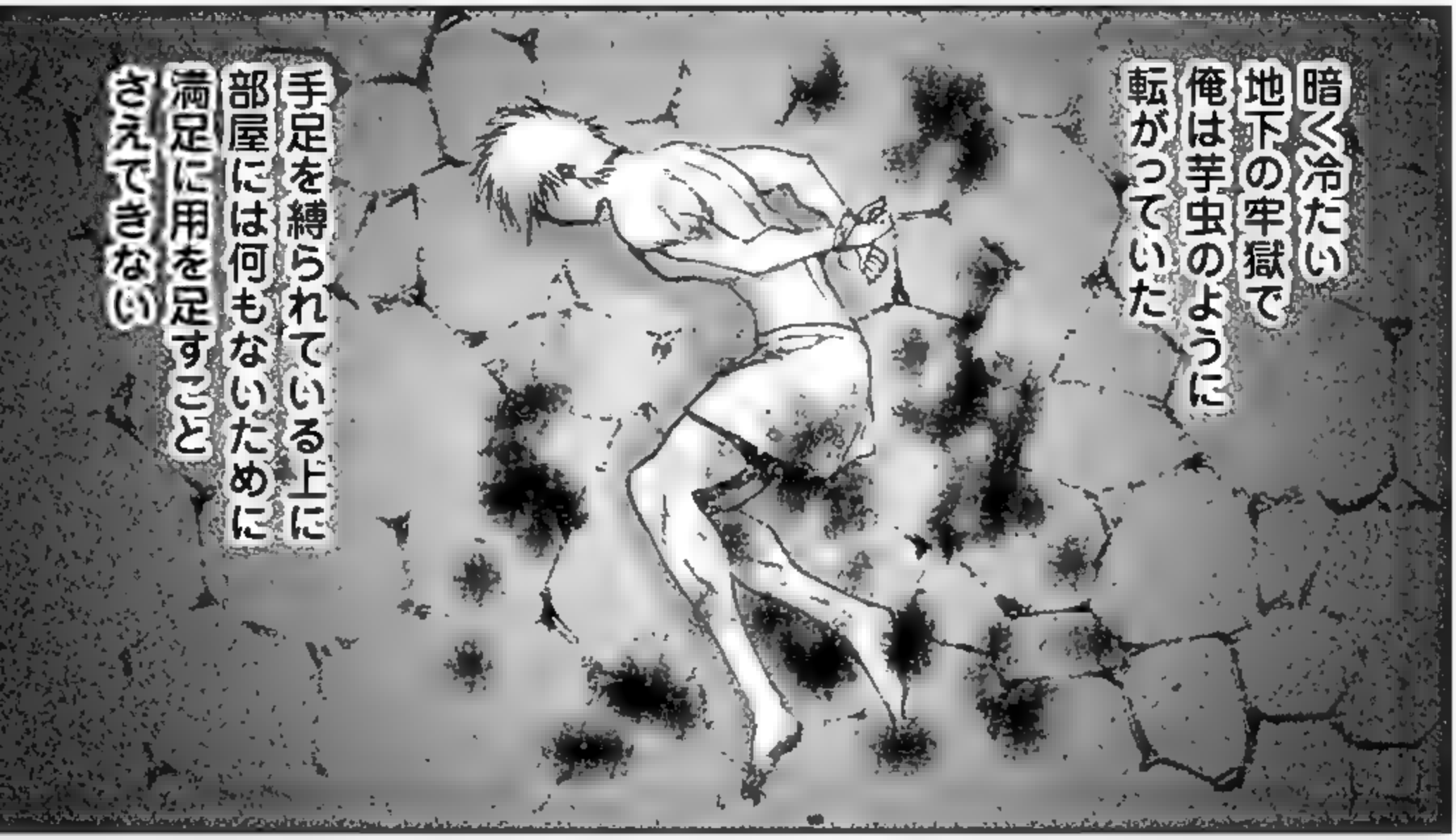
…良かったな
あと3回勝てば
仲間を救えるぞ

Step.11 End

ゴキブリ

Step.12




暗く冷たい
地下の牢獄で
俺は芋虫のように
転がっていた
手足を縛られている上に
部屋には何もないために
満足に用を足すこと
さえできない

自分の出した
汚物にまみれ
惨めな気持ちで
俺は辛うじて
生を繋いでいた
そのあまりの屈辱に
命を断つ事なく
生き長らえる事が
できた理由は
ひとえに
仲間の存在に他ならない

真っ先に
気絶させられた
俺には仲間達が
どうなったか
わからない

最初の三日ほどは
仲間達が救出に
来てくれる事を
期待していた

それからは
どうやら救援が
期待できない事と
相手が俺を
長く生かしておく
つもりがない事が
わかってきた

冷たい床は
容赦なく体力を奪い
計り知れない無力感と
汚物の饐えた臭いが
俺の精神力を
ことごとく削っていく

それまで食事を
運んでいたのは
人形のように
美しい黒髪の女

何を言おうが
眉一つ動かさず
自分の任務を
忠実にこなした

その後 現れたのは
蝙蝠(こうもり)の翼を持つ
女悪魔だった

話しかけてみると
そいつは意外にも
気さくに受け答えした

「仲間は二人とも
捕まっている」
という話は
俺を落胆させたが
それほどショック
ではなかった

仲間達は
俺よりは
かなりマシな
待遇を受けている
という情報も
得られたからだ

八日目
別の心配が
湧き上がってきた

何故 彼女達は
俺より良い待遇を
受けているのか？

単純に考えれば
オウルは三人を
殺す気はないという事だ
少なくとも すぐには

だがそれは俺に
最悪の展開を予想させる

そして
その悪夢が
現実となる
日がやってきた

出なさい

アラン

牢での
生活は
終りよ

身を清め
ましょう

なんだ…

ここは…

今までの部屋と
全く違う

床は綺麗に清掃され
壁はうっすら
光っている

…

シャル！

ウィキア！

ナジャ！

三人とも
無事だったのか！

…どうしたんだ？
皆 まさか口を
きけないように
されてるのか？

それとも
耳が？

アラン…

…ごめん
…ごめん

ウィキア…

！

感動の再会は
堪能できたか？

…オウル！

貴様三人に何をした!?

ふむ…

…何をしたか

…レオナ 説明してやれ

すまんなアラン

私はお前を騙していたんだ

レオナ…？

私はオウル様の忠実な部下

ずっと お前の仲間のふりをしていたんだ

嘘だッ!! そんな… …そんなはずがない

だって お前は…ッ!

この男は お前の言葉が信じられんようだ

どれ お前の忠誠の証(あかし)を俺に見せてみろ

はい オウル様

どうぞ 私の忠誠の証をお受け取りください

ナジャっ！
やめろ

やめてくれ！
嘘だ
こんなの嘘だ
冗談…

いや
はかりごとなんだろう？
そうやってそいつを
誘って首を刎ねる

ああ…
オウル様のが
はいってくる

ああ獣目だ
シャル！ウィキア！
ナジャを止めてくれ！

あっ

ズチュ

パンッ

ズチュッ

パン

ズチュ

やめろ…
…やめてくれ

ビュル

ビュッ

ビュッ

ああああああ！

イク…ぞ！

お晴けを
ありがとう
ございます…

これで
理解できたか？

私の身体は
毛の一本から
爪の一欠片に至る
までオウル様の
モノなんだ

ナジャ…

オウル様…

私はオウル様を
深く愛している…
お前を騙して
悪かったが
主人の為だ
すまんな

次はシャーリー
お前だ

はい

あたしは
アランさんの事を
愛してました

強くて勇敢で
誰よりも優しい…
そんなアランさんが
大好きでした

シ…
シャル…？

でも

あたしは
そんなものより
もっと素敵な
ものを

オウル様に教えて
もらったんです…

それが

このおちんぽです…

ああ…硬くて
大きくて逞(たくま)しい…

ジャ…ル

J

アランさんの
なんかとは比べものに
なりません…

なな ア

すっごく
素敵…

オウル様…あなた様の
いやらしい奴隷めを

その太くて素敵な
おちんぽで
奥まで犯して…

白い精液を沢山
注ぎ込んで
くださいませ…

信じられない…
…あの純情な
シャルが…

控えめで
清楚だった
彼女が…

あぁ…

もっともっと
奥まで……っ！

奥まで犯して
くださいいっ!!

あ～♥

オウル様の太いの
入ってきてるぅ…

いくぞぉぉぉ

この娘は
他の二人と違って
未だ俺に身体を
許してはおらん

また
真名も
捧げていない

いつも沈着冷静な
ウィキアが
あそこまで
嫌悪の表情を…

おそらく力ずくで
魔術を封じられて
いるのだろう

他の二人が
あなった理由は
わからないが
邪悪な魔術の仕業に
間違いない…

しかし
ウィキアには
通じなかったのだ
自身も稀代の
魔術師である
彼女にだけは

…策だ!!
策さえ思いつけば!
頭のいいウィキアは
すぐに合図で気付き
実行してくれる!

手枷を
なんとかして外し
ウィキアの魔術を
封じた呪具を
破壊しオウルを殺す

…

ウィキア!
気付いてくれ
察してくれ!!

ウィキア
君だけでも
俺が守る!

…ごめんなさい

アラン

さあ
ウィキア
奴に教えてやれ

…お前は
誰のものなのかを

ごめんなさい
アラン…

私

…！
魔術の刻印！

もう…
心以外
全部オウルの
ものなの

そんな…
…ウィキア…

嘘だろう…？

大丈夫だ
すぐに…すぐに俺が
なんとかする
作戦を考えるから…

…いつだって
危機を切り抜けて
きたじゃないか
ほら……俺達の
絆があれば

…所詮 絆など
この程度のものだ

確かにお前達は
本当の意味で絆を
結んでいたのだろう

しかしそれも
こうして簡単に
崩れ去るものでで
しかない

さあこい
ウィキア

やめろ…
…やめろ

その汚らわしい
物をちょっとでも
彼女の中に
入れてみろ

粗末なそれを
一寸刻みに
切り刻んでやる！

やめろ！

ウィキアアアッ！

やめるんだ
あああ！

う…

ぐ…

殺す

殺す

殺してやる
呪われろ
腐り果てちまえ！

殺す

絶対に
許さない！

お前らもだ！
ナジャ！
シャル！

この
クソったれの

この
売女ども！

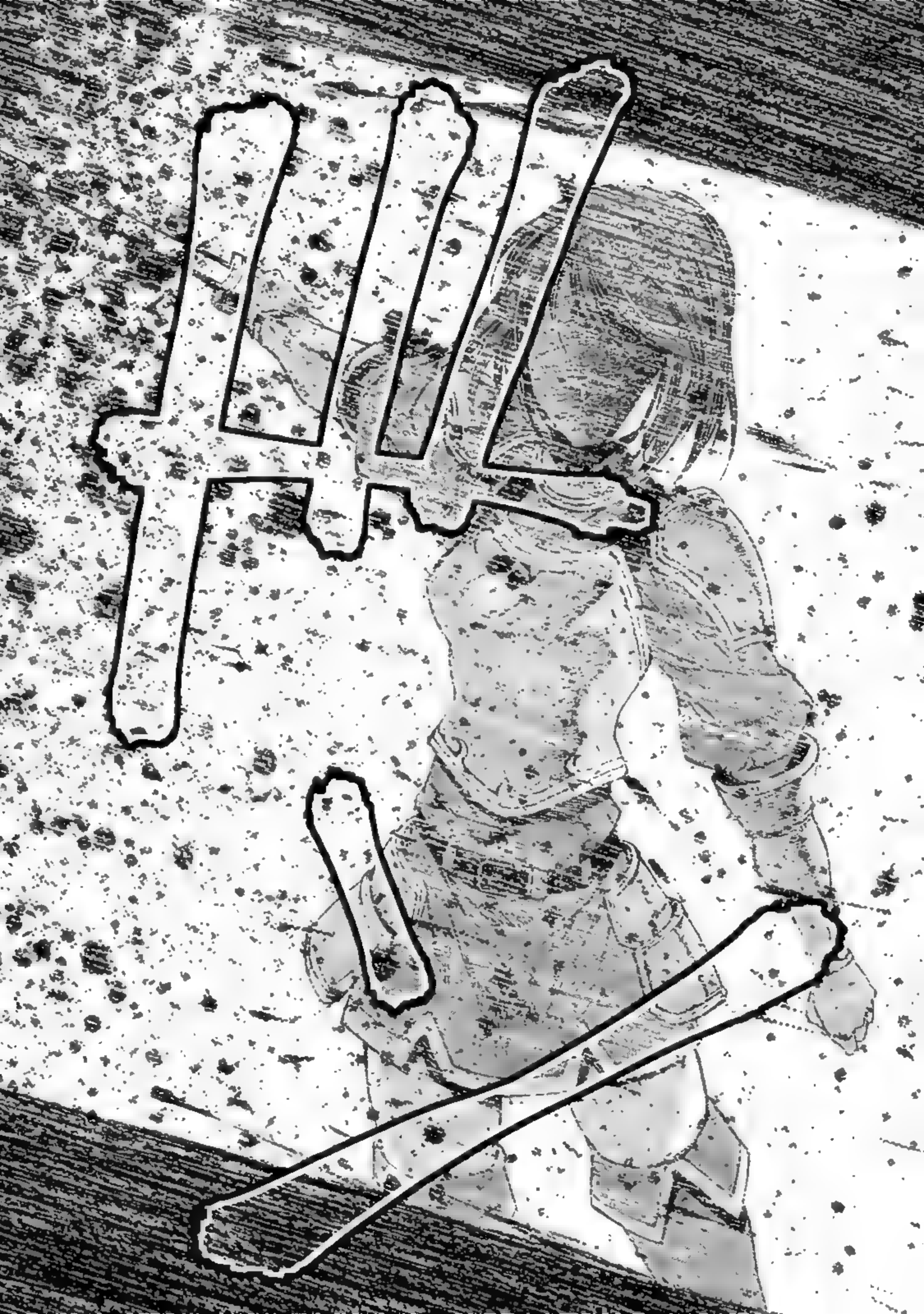
そんな男に
色目使いやがって
ええああああ！

あばずれが
あああああ！

さあ
ウィキア
あの下品で
野蛮な男に
教えてやれ
真名と共に
お前の主が
誰であるかを…
私の
主は
このウィクトル・
クィア・ウィクティマ…
の主は
オウル
あなたです
……！

七人ミサキ

殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す



憎悪と呪いを
その身に抱え
甦れ
あらゆるものを呪い
あらゆるものを憎む

あ
あ
あ

あん！

第二階層の
守護室に
配置しておけ

ドヴェルグどもに
言って防具も
一式用意させろ
ああ盾はいらんぞ

はーい
ご主人様は
どうするの？

うむ
そうだな

もう少し
楽しませて
もらうとしよう

ウィキアは
今が初めてで
三人揃うのも
初めてだからな

あ

ぱん
ぱん

あ

…これの処理して
戻ってきたら
ついでにわたしも
相手してくれる？

♡

おぅ

…まあいいだろう
ついでにスピナと
見かけたらでいいから
エレンも連れてこい

あの二人も
フォロー
しとかないとな

了解！
じゃ 急いで
いってくるね！

…

ちゃん？

おおお

ぱん

テュラハンちゃん
ついてらっしゃい

Step.12 End

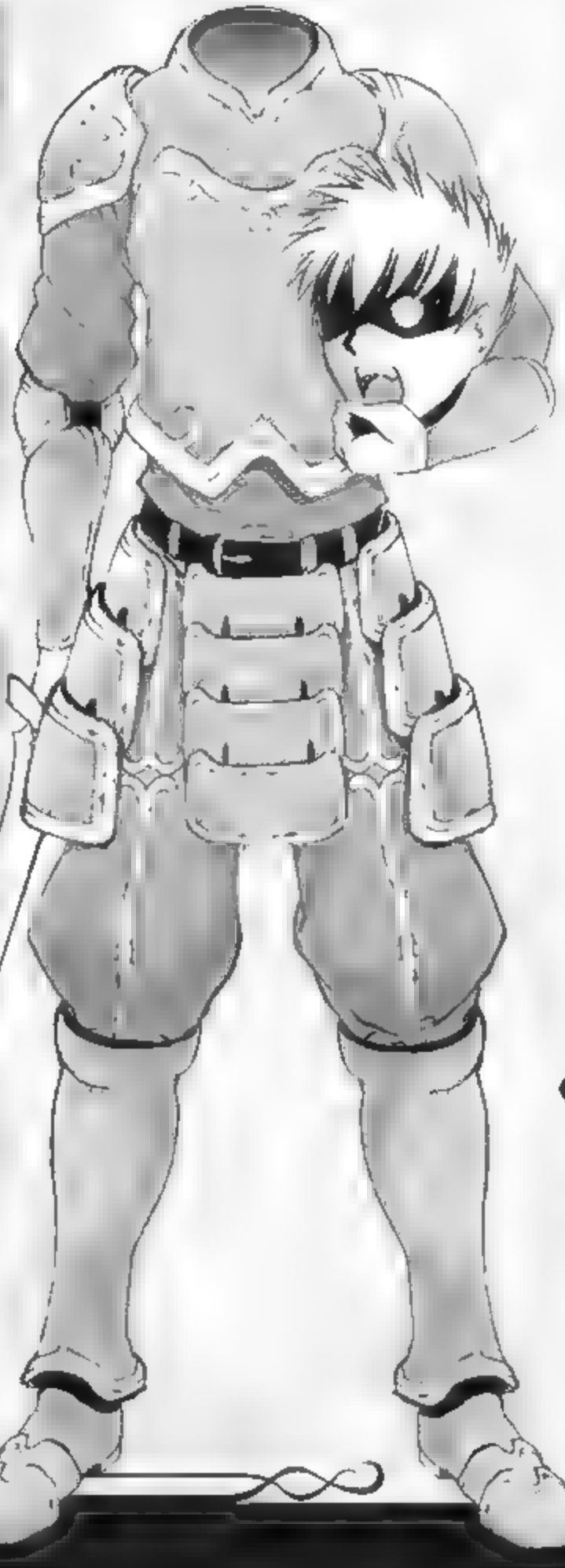
ウィキア

wikawitch

† 職業:魔術師
† 戦力:6
† 最大貯蓄魔力:3.5

頭脳明晰・冷静沈着な魔術師。しかしオウルとのゲームに破れ、彼の所有物に。魔力の流れを視認できる才能の持ち主。

「なっ…心臓以外全部オウルのものなの」



「殺す―殺す―殺す―」

デュラハン

dullahan-undead

† 職業:狂戦士　† 戦力:8

剣士アランの憎悪に満ちた亡骸をもとに、オウルが作り上げた不死の怪物。剣技と魔術を自在に操ることができる。

Step.13

フィグリア王国 王都

……

彼等でもダメだったか…

「アラン遊撃隊 地下8階を探索中に消息を絶つ」か…

一流の冒険者である
アラン遊撃隊には
期待していたが…

110

どうやら彼等でさえ
魔王(オウル)を討つには
足らないらしい

オウルに賞金をかけて
冒険者を募った
までは良かったが

狡猾で冷酷だが
無駄に殺戮を
好むような
隙もない

徹底した
合理主義者で
臆病だが
大胆不敵

恐ろしいほど
慎重で計算高く

絶対に他人を
信頼しない

空間魔術や
召喚術に長じ
魔力付与や
魔物の支配にも
長けているが

攻撃魔術は
それほど
得意ではない…
しかし人間では
ありえないほどの
魔力量を持ち

魔術強化された門さえ
長距離から粉々に
吹き飛ばすほどの
力技を使う…

…在り得ないほどの
魔力量か

アカニの門を
破壊した魔術は
調査の結果『爆裂（エクスプローション）』
系統であると判明
している

これは魔力を
狭い空間に注ぎこみ
溢れだす衝撃で周囲を
炸裂させるものだ

魔力量さえあれば
破壊力をどこまでも
増大させられるが
対魔力効率は
あまり良くない

並みの魔術師の
魔力量では
長距離での使用さえ
不可能だろう

普通 攻城には
『隕石落下（メテオスウォーム）』や
『大砲（カノン）』が使われる

これらはずっと
少ない魔力量で
威力を得られるが
その分 制御が
はるかに難しい

それこそ一国の
導師級の技術が要る
…しかしオウルの
魔力量は導師級よりも
数倍して余りある

莫大な魔力量を
問題なく制御しながら
攻撃魔法技術は
並みの魔術師程度
というのは不自然だ

普通に考えれば
それこそ伝承に聞く
〝魔道王〟のごとく
あらゆる魔術を
縦横無尽に使うはず
ではないのか？

…

…あるいは
そこに付け入る
隙があるのかも
しれんな

…

おかしい

どしたの？

コアの魔力が減ってきている

えっ
今月ちょっと魔力使いすぎちゃったかな？

いや…これは消費が多いというより

吸い込む魔力量そのものが落ちているな

じゃあどこかが崩落しちゃったのかな？

いや現在の量を見るに数日前から徐々に減っているようだ

魔力の流れ方からしてどこかで崩落が起きているという様子もない

…龍脈自体の流れが変わったのかもしれないな

龍脈って
あれでしょ？
大地の中を流れてる
川みたいな
魔力の大きな流れ

そんなのが
簡単に変わったり
するの？

いや
普通は変わらん
だが全く変わらない
わけでもない

…どこかで
地盤沈下でも
あったのかも
しれんな

まあ流れが変わろうと
変わった方向に
迷宮を広げれば
良いだけの話だ

…ユニスとか
スピナ呼ぶ？

…いや
いい
空中から調査する
大人数で
フィグリアの連中に
勘付かれても困る

だが
どう変わったのか
調べなければならん

調査に行くぞ

じゃあ
準備して
くるね！

だっ

準備？
別に何も
いらんぞ

はいお弁当も
用意したの！

なんだその格好は
どっちも置いてけ

リル
進路を変えろ
ここから
2時の方角だ

空から
龍脈が流れてるか
どうかなんて
見てわかるの？

いや
わからん

今は以前調べた
龍脈を逆に
辿っている
ところだ

龍脈が数日で
ずれるほどの
変化があれば

必ず目で見て
わかるほどの
何かがあるはずだ

※約1600メートル

その流れって
どうやって
調べるの？

大地の中を
流れてるんなら
魔術や〝魔力の瞳〟
とかでも無理だよね

深く穴を掘って
そこの土に
含まれている魔力が
通常の百倍あれば
そこは龍脈の上（龍脈点）
と言っていい

1マイル※ごとに
そうして掘って
龍脈点が2箇所あれば
そこを線で繋いだものが
龍脈だと予想できる

それって…
…結構大変
じゃない？

リル
進路を変えろ
ここから
2時の方角だ

空から
龍脈が流れてるか
どうかなんて
見てわかるの？

いや
わからん

今は以前調べた
龍脈を逆に
辿っている
ところだ

龍脈が数日で
ずれるほどの
変化があれば

必ず目で見て
わかるほどの
何かがあるはず

※約1600メートル

その流れって
どうやって
調べるの？

大地の中を
流れてるんなら
魔術や〝魔力の瞳〟
とかでも無理だよね

深く穴を掘って
そこの土に
含まれている魔力が
通常の百倍あれば
そこは龍脈の上（龍脈点）
と言っていい

1マイル＝ごとに
そうして掘って
龍脈点が2箇所あれば
そこを線で繋いだものが
龍脈だと予想できる

それって…
…結構大変
じゃない？

結構どころじゃない
俺は龍脈の調査を
している間
ずっと狂人や変人扱い
されていたくらいだ

今迷宮を広げている
場所は3本の龍脈が
交差している地点だが
ここを割り出すのに
20年かかった

そこまでして
場所を特定しても
ダンジョンコアが
なければ何の
意味もないからな

……

ご主人様
何かかすかに
魔力の匂いがする

！

何だと？
どこだ？

んん…
…あっちの
方かな

!!

何これ？

鉄柱？

…

？

魔力が…

これは…！　しまった

漏れている…！

リル！

！

ぐっ…

オウルッ!!

駄目だ来るな！

ズボボボボ

リルシャーナ

『逃げろ』！

ドオオオ

ほう

思ったより
いい男
じゃないか

はじめまして
魔王オウル

私は
フィグリア王国軍
軍師のキャスだ

軍師？

ああ
この辺りではまだ
一般的ではない
だろうな

主に軍の
戦略指揮補佐
作戦の立案等を
専門に扱う職業だ

ふむ…
…ところで
客に対し椅子ぐらい
出ないのか？

…自分の立場が
わかってない
ようだな

わかっているから
言っておるのだ

おい

はっ

流石は魔王と
誉めておく

こちらの要求を
理解しているなら
話は早い

それは 計略で
上を行った
自分の事を
褒めているのか？

まさか龍脈の位置を
把握している者が
俺以外にいるとは
思わなかった
どんな魔法を使った？

そんな安い挑発で
口を滑らせる
ような女と
侮らないで欲しい

が

二度と同じ手は
通じない
だろうから
教えてやろう

簡単なことさ
龍脈の魔力を
使っていることは
わかったが

どこを龍脈が
流れているか
なんて全く
わからなかった

だから

お前の魔窟の
周囲全体に
同じ罠を無数に
作ったのさ

……

どうだ
悔しいか

お前の弱点は
他人を信じない
事だ

綿密な計算を
ただの力技で
破られた
気分は如何(いかが)？

迷宮の骨子となる
龍脈の魔力が
乏しくなれば
必ず自分自身で
調べに来ると
思っていたよ

ここ数カ月
私はずっと
お前の事を
調べ上げていた

できれば名実共に
友人になりたい
お前はそうは
思わないか？

友人だと？
部下か
奴隷の間違い
じゃないのか

お陰で初対面だと
いうのに気心の知れた
友人に会う気分だよ

勿論

お前がそれを
望むならそういう
関係でも私は
一向に構わん

『迷宮全てとそれを作った技術を全て差し出せ』つまりそういうことか…

…さて両腕を縛られた状態でどうするか…この女かなり頭が切れる…

舌先三寸で騙すか丸め込む手は通用しないだろう

悪いが俺は踏まれるより踏む方が好きな性質でな

お前が俺の靴を舐めるんだったら考えないでもないぞ

…まあ予想はしていたが協力する気は無しか…

『ラディクス』

『フルーメン』

何故…

貴様がその名を
知っている…

苦労
したぞ

琥珀色の髪に
茶の瞳
まあ大して
特徴もない
よくいる色だが

それはここ
数十年の話だ

およそ
70年前

我が
フィグリア王国が
隣国プラエティを
滅ぼし植民地に
するまでは

瞳の色はともかく
琥珀色の髪の者など
殆どいなかった

お前が街に
送った手紙も
見たぞ

「オウル」の
綴りの〝O〟の
文字に僅かだが
違和感があった

まるで
そこだけ
書き慣れて
いないかの
ようにな

本当の名前は
〝A〟から
始まるんだろう

プラエティ
読みでは
オウルは
『Aur』だ

…

目撃証言に
「20代ほどの男」とあるが
これほどの魔力を持つ
大魔術師がそんなに
若いわけがあるまい

魔術で
若返っていると考え
私は調べる範囲を
数十年以上前にまで
伸ばした

そうしたらいたんだ
『アイン・ソフ・オウル』
と名乗る魔術師がな

まあ
そちらでは主に
『アイン』と呼ばれて
いたようだが

…大した
名推理だな

だが
それがどうか
したのか

フフ…

アイン少年は…
そう70年前
お前は間違いなく
少年だった

彼は
プラエティ王国に住む魔女
『ラディクス・フルーメン』
…通称『ラズ』に拾われた

これが資料にある
アイン少年の
最も古い記録だ

彼女はお前と同じ
琥珀色の髪を
していたらしいな

とにかくラズは
アインを自分の
弟子にした

彼女の専門は
〝魔術付与〟だった

…といっても
剣や槍に魔術を
込めるような
ありがちな
ものじゃない

城や投石器のような
建築物や大型兵器に
魔力を込める
専門家だったらしい

国家魔術師でもない
一介の魔術師だった
彼女の名が記録に
残っているのも
その為だな

彼女（ラズ）の作った
砦や兵器は
戦争に多大な
功績を残し

小国ながら
我が
フィグリア王国に
長いこと抵抗を
見せた

しかし
アイン少年を
拾った辺りから

ラズは国への
協力を減らし始め

…やめろ

ついには己の
作った塔に
篭って出てこなく
なってしまう

プラエティ王国は
これを反乱と見て

兵をもって
塔を包囲し
殲滅にあたった

…その
結果は…

やめろと言っている！

自らの師を裏切り

彼女の首を差し出す弟子によって終結し…

こ…この男…
な…に？

殺気…？
いや…

まずい…
このまま
生かして
おくのは
危険すぎる…

こ…

殺せ！

何をしている

八つ裂きに
しろ！

は…
はっ！

世世

魔王の始め方 THE COMIC 2 End

魔王の始め方

How to book on the Devil

ヴァルキリーコミックス

魔王の始め方 2
THE COMIC
【電子書籍版】

漫画
小宮利公

原作
笑うヤカン

キャラクター原案
新堂アラタ

装丁
マイクロハウス

発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル１Ｆ
●編集部 TEL.03-3551-6147／FAX.03-3551-6146
●販売部 TEL.03-3555-3431／FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Toshimasa Komiya　©Warau Yakan 2016

当ファイルは、ヴァルキリーコミックス『魔王の始め方 THE COMIC 2』
（2016 年 7 月 8 日　初版発行）に基づいて作成しております。

http://ktcom.jp/

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

本作品のご意見、ご感想をお待ちしております

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、ジャンルなど
どしどしお書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎ **http://ktcom.jp/goiken/**

◎手紙・ハガキの宛先◎
〒104-0041 東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
(株)キルタイムコミュニケーション　ヴァルキリーコミックス感想係

HOW TO BOOK ON THE DEVIL THE COMIC 2

comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan

〝魔王〟への第一歩として人間の街へ侵攻するオウル。
そしてその存在を危ぶむフィグリア王国は、
彼を討つべく腕利きの冒険者パーティを
魔王のダンジョンへと送り込むのだが…？
人間の尊厳と欲望を弄ぶ、
魔王のダークファンタジー第2巻!!